

スマホ どうする?

今年3月、第2期椎葉村教育振興基本計画の策定に合わせて、村教委が公表した「教育に関するアンケート調査」を見ると、スマホに関して次のようなデータが挙がっています。

問ア(児童生徒に対して)「自分専用の携帯電話やスマホをもっていますか?」→回答:小学生「はい27%、いいえ73%」、中学生「はい42%、いいえ58%」、保護者「もたせていますか」「はい19%、いいえ81%」…児童生徒と保護者の数字に食い違い有り?

問イ(問アで「はい」と回答した児童生徒に対して)「使用時間などのきまり(ルール)がありますか?」→回答:小学生「ある60%、ない40%」、中学生「ある47%、ない53%」、保護者「ある80%、ない20%」…これも食い違い有り?

問ウ(問アでもたせていると回答した保護者に対して)「利用時間、利用金額、利用サイト等を把握し、適切に監督することができますか?」→回答:「できている62%、できていない38%」

問エ(問ウと同じ方が対象)「フィルタリングをかけていますか?」→回答:「はい57%、いいえ33%、ネット使用不可の携帯所持10%」

聞くところによると、問アについては、県下では小学生が4割、中学生が6割、高校生は9割を超える所持率となっているそうで、今後益々高くなることが見込まれています。

さて、スマホ使用について、「持たせないではなくて、使い方を考えさせる」が主流となっている昨今ですが、正直、持たせる大人は適切な使い方の理解や子どもの状況に追いついていないのが現状ではないでしょうか。ロシアのプロパガンダ(情報統制)を見て恐ろしいと思う日本国民ですが、自分の考えをもたずに主流に委ねている自身の様子は恐ろしくないのでしょうか。様々な情報(価値観)が錯綜・氾濫するご時世、子どもたちには「情報処理能力の育成」が求められています、よね?

保護者の悩み

以下、東洋経済オンライン(5/20 キャリア・教育▶子育て)の記事を引用します。タイトルは「**スマホルールを破る子に『即没収』がダメな理由**」です。まずは、相談内容です。

夜は10時までにやめるルールでしたが、最近では、真夜中過ぎまでスマホをいじっています。ルール違反をしたら没収する約束っていました。でもスマホは調べものなどで利用することもあり、「勉強に使うから」と言われると厳しい態度がとれません。友達との連絡手段がなくなりて仲間はずれになりかねない、という心配もあります。思春期の子どもが素直に没収に応じるはずもなく、ルールやペナルティーはもはやないも同然です。(中3男子の母親から)

とても身近に感じられる内容ではありませんか?スマホをゲームに置き換えたら、今やほとんどの日本の子育て世帯の悩みと言ってもよいかもしれませんね。学校でももちろん〇〇依存や情報モラルについての指導は行います。しかし、公教育ですから、家庭の望ましくない状況に踏み込んで具体的に指導することはできず、一般的かつ広義な内容となりがちです。だからといって、(家庭に任せた!)と放り投げるつもりはなく、共に悩み、課題解決に向けて力を合わせたいと思っています。

家庭内のルールづくり

前述の相談者に対して、アドバイスを行っているのが、右の書籍の筆者である石田勝紀氏。石田氏は、スマホ・ゲーム中毒に陥るのは親や子どもが悪いわけではなく、中毒になってしまふ仕組みに問題があると指摘しています。そして、その仕組みを打破するためにはルールづくりが必須であると説いています。

(子育ては人生初、スマホのルールづくりなんて学んだこともなく、学校からの具体的な指導もない…)

そんな中、ただでさえ難しい子育てに、文明の利器をうまく使いこなす術を持ち合わせる保護者など、存在する方がおかしいかもしれません。

だから、本に学び、コミュニティの仲間と語り合って、「どうする?」の解決を図っていくしかないですね。

石田氏のアドバイスを要約すると、ポイントは以下のとおりとなります。

- ①ペナルティーを実行しない=親が約束を破っている
▶ペナルティーを実行しないと、子どものルール破りはエスカレートする。
- ②たった一度の駐車違反で免許を取り上げられたら…
▶ペナルティーにも軽重がある。軽いルール破りには軽いペナルティーを。
- ③子どもの心理をくみとりながら望ましい方向を探る
▶理不尽に重いペナルティーは逆効果になる可能性が高い。ルールやペナルティーを緩めるとの発想を持つ。

